

製品名: インヒビン β -A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12613**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	INHBA
別名	INHBA; Inhibin beta A chain; Activin beta-A chain; Erythroid differentiation protein; EDF
遺伝子 ID	3624.0
SwissProt ID	P08476
免疫原	抗血清はヒト INHBA の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 377-426

背景

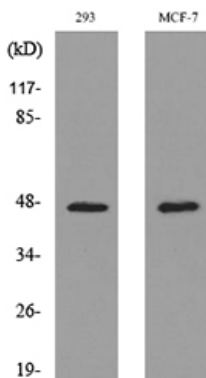
この遺伝子は、TGF- β (形質転換成長因子 β) スーパーファミリータンパク質のメンバーをコードしています。コードされているプレ

プロタンパク質は、タンパク質分解によって二量体アクチビンおよびインヒビンタンパク質複合体のサブユニットを生成します。これらの複合体は、下垂体からの卵胞刺激ホルモン (FSH) 分泌をそれぞれ活性化および阻害します。コードされているタンパク質は、眼、歯、および精巣の発達にも関与しています。この遺伝子の発現亢進は、ヒト患者における癌性悪液質と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2016年8月]、機能: インヒビンおよびアクチビンは、下垂体からのフォリトロピン分泌をそれぞれ阻害および活性化します。インヒビン/アクチビンは、サブユニット構成に応じて、視床下部および下垂体ホルモン分泌、性腺ホルモン分泌、生殖細胞の発達と成熟、赤血球分化、インスリン分泌、神経細胞の生存、胚軸発達、骨成長など、多様な機能の調節に関与しています。インヒビンはアクチビンの機能に拮抗するようです。、オンライン情報: アクチビンのエントリ、類似性: TGF- β ファミリーに属します。、サブユニット: 1つ以上のジスルフィド結合で結合した二量体。インヒビン A は α と βA の二量体です。インヒビン B は α と βB の二量体です。アクチビン A は βA のホモ二量体です。アクチビン B は βB のホモ二量体です。アクチビン AB は βA と βB の二量体です。、

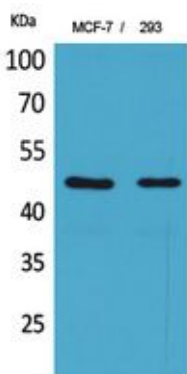
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;TGF- β ;

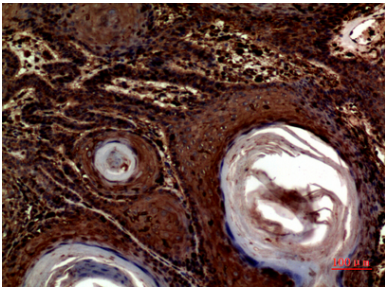
画像データ



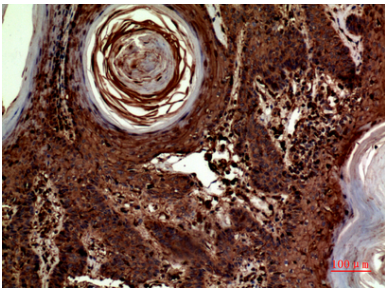
INHBA 抗体を使用した 293 MCF-7 細胞の溶解液のウェスタン プロット分析。



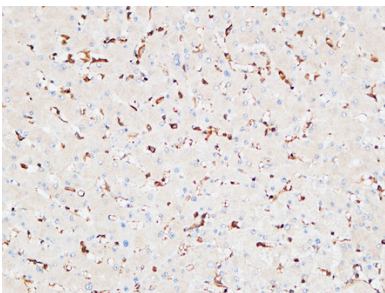
インヒビン β -A ポリクローナル抗体を用いた MCF-7,293 細胞のウェスタンプロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



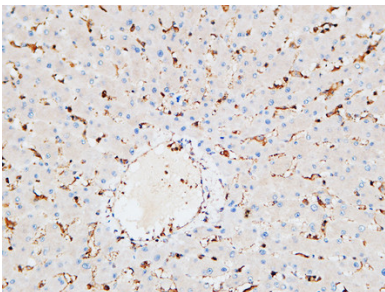
パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



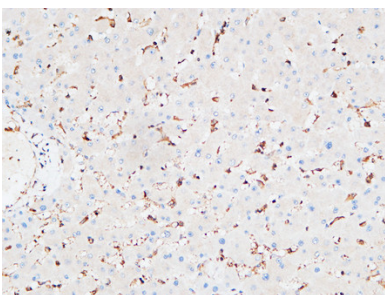
パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。